

できる人が、できる時に、できることを  
～改革を楽しもう～

- ポイント
- ✓ 自由意思で参加するPTA活動（兼任や複数回の参加大歓迎）
  - ✓ たくさんの会員が「やってよかった」「できそう」と思えるような活動内容の見直し
  - ✓ 人数ありきの活動を廃止（「〇名いないといけない」をやめ、学校全体で少ない人数でも集まった人数でできる事をする）
  - ✓ P T Aは大変な活動ではない、気軽に楽しく参加できるという広報（SNS等）
  - ✓ 多様な人が参加しやすい仕組みを構築
  - ✓ 役員がするのは、「プランニング」、「ボランティアと予算のマネジメント」。現場は、係とボランティアがメインで。

③デジタルを利用した広報活動の強化

- ・PTAは大変な活動ではない、気軽に楽しく参加できるものだという広報をSNS等を通して、継続して行う。
- ・デジタル力がある人に入ってもらえるような工夫をする。

④ボランティアの仕組みの構築

- ・人数、場所、日時が決定してから募集をする。
- ・ボランティアを集める仕組み（GoogleフォームやLINE等SNSの利用）。
- ・任意加入していただいた人には、「単年度一回は何らかの形で参加」、「卒業までに一役」はお願いベースで依頼。

①組織改革：運営委員の活動の分散

- ・運営委員・執行委員がするのは、「プランニング」、「ボランティアと予算のマネジメント」。現場は、係とボランティアがメインで。
- ・本人の自由意思に基づき兼任を可能にする。
- ・能力や好みを活かせる環境づくり（ICT、広報、企画、印刷、写真、イラストづくり、編集、情報共有、細かい作業、単純作業などなど）。

⑤フルタイム勤務の会員や父親の力の活用

（多様性・ジェンダー平等）

- ・定例会の参加を自由に（できるだけオンライン会議を行う）。
- ・職域をはっきりさせ、希望者については、自宅一人で作業が進められるような仕組みの構築。
- ・平日に集まって作業や活動をしなくてもよい形の支援（集まるのは最小限。）。
  - ・夜間や土日の打ち合わせをする場合、集会所費用をPTAから支出。
- ・各家庭の複数の児童関係者\*が、協働してPTA活動（役員・係など）ができるよう支援（代表者は一人）。
  - 例）父母で情報共有しながら、役員活動を行うなど。
  - \*①会員、②児童の父母、③父母と同等に児童を養育されている方
- ・単年度でできることをできる人がする。例）イベントは毎年続けて実施しなくてよい。次年度のことは次年度の役員が考えるので「次年度ができないかも～」という心配はしない。

②ゼロベースでの活動の見直し

- ・外注できるものは外注する（印刷・掃除など）。
- ・自分の子供が参加する場合には参加者の理解も得られやすいことから、行事をなくすだけではなく子供を連れて参加できるように外部団体に交渉。外部団体にも参加者へのメリットを増やしてもらうように交渉。
- ・イベントの棚卸（必要なもの、保護者がかかわることで価値があるもの、ボランティアが集まりそうなものという軸で検討）。
- ・たくさんの会員が「やってみたい」「できそう」と思えるような活動内容の見直し
- ・人数ありきの活動を廃止（「〇名いないといけない」をやめ、少ない人数でも集まった人数でできる事をする。）。

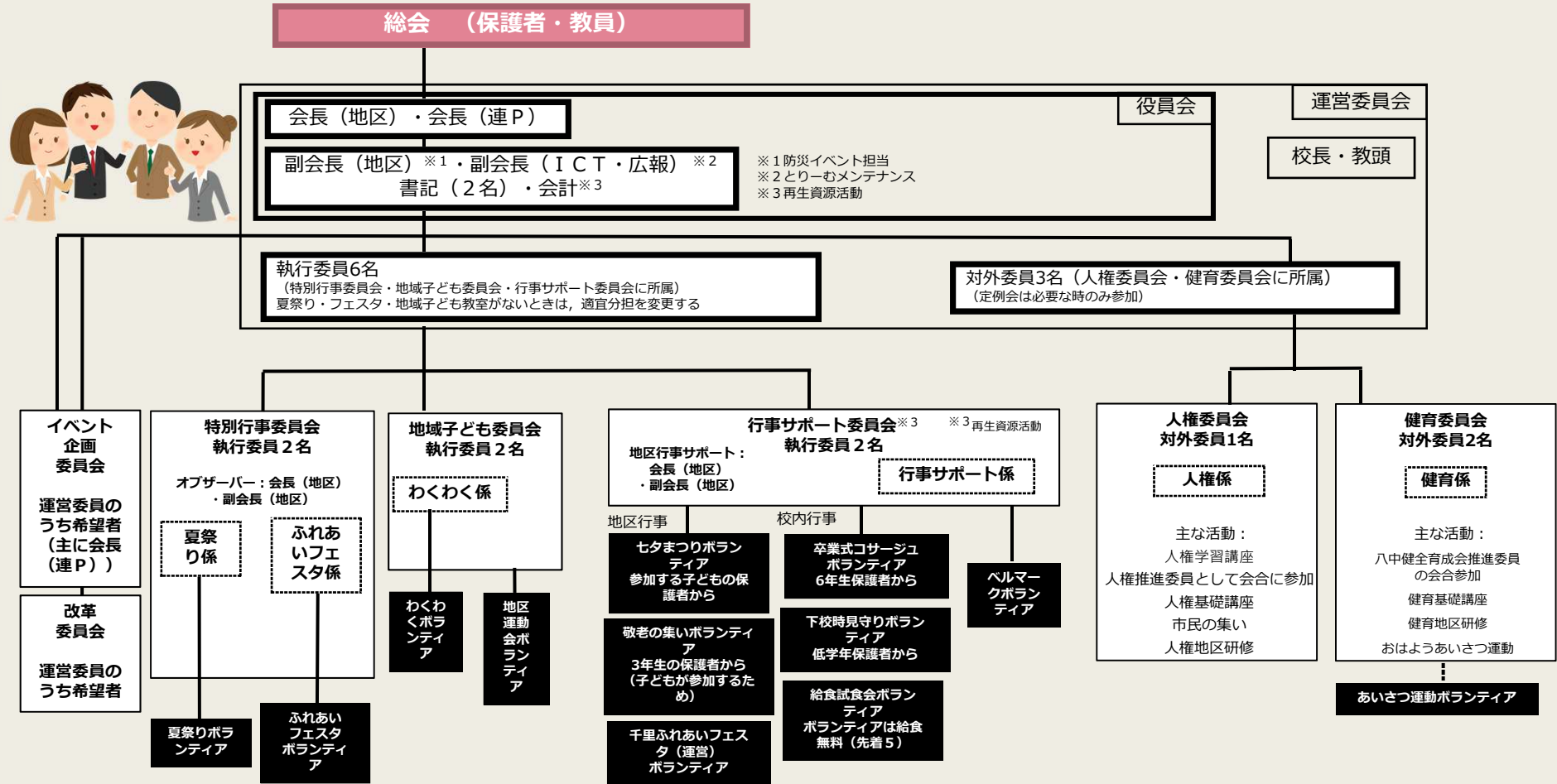
⑥会員や役員へのメリットの創成

- ・会員への情報提供がメリットにできるよう、オンライン等で情報を提供する仕組みを構築（SNSの利用など）。
- ・懇談会・ワークショップなど、負担のない気軽なイベントの開催。
- ・子供のためにボランティアができることをメリットにできるように、保護者がかかわることで子供たちが喜ぶような形のイベントに絞って実施（保護者が「やってよかった」という活動に絞る。子どもが参加する場合には、保護者にお手伝いをお願いするなど）。
- ・夏祭り手伝いをしてくれた保護者へのチケット配布など
  - （\*児童への差別にならないように配慮しながら、会員の参加することへのメリットを増やしていく）

北丘小の子どもたちのために、自由意思で参加するPTA活動の実現と継続（参加することに魅力を感じる団体へ）



# 組織図案



**係**

執行委員・対外委員の指示を受けて、ボランティアに指示を出したり、自ら活動を行う会員。4～5月ごろまとめて募集。

**ボランティア**

日時が決まってから都度募集する会員委員や係の下で短時間のボランティア活動を行う。学校全体で少ない人数でも集まった人数で実施。

【ご協力お願いします】

- 役員：末のお子様がお卒業までに一回程度（役員をご経験いただいたご家庭は、ごきょうだい分を含めその後の係をしていただく必要はありません。）
- 係：お子様お一人につき、卒業までに一回程度
- ボランティア：単年度1～2回程度

